

にらの早期捨て刈り連続収穫栽培技術における夏期の品質向上技術の実証

要約

外気温に反応してフィルムの透明性が変化する資材を展張した場合、夏期はハウスに入る光が散乱光(梨地調)となることで気温の上昇が対照区よりも2℃程度低く抑えられた。葉先枯れの程度も軽く、平均AL品率は72.3%(対照区58.9%)となった。

○ 展示のねらい

近年、夏期は異常高温等の影響で安定した品質のにらを継続的に出荷することが困難となっていることから、被覆資材や循環扇などの暑熱対策による夏期の品質向上技術を実証する。

	品 種	処理の内容
供試区	ゆめみどり	夏期の遮熱フィルムの展張(厚さ0.15mm、農PO)、循環扇の設置
対照区	ゆめみどり	通常の外張被覆(厚さ0.1mm、農PO)、夏期の寒冷紗、循環扇の設置

○ 主な成果

- ・ハウス内気温については、晴天の日中は供試区は対照区よりも2℃程度低く推移した。対照区が5℃近く高温となる時間帯もあった。
- ・夏期の収穫2回の平均AL品率は、供試区で72.3%、対照区で58.9%だった(表1)。
- ・葉先枯れ程度は、供試区で夏期1回目が0.43、夏期2回目が0.86、対照区で夏期1回目が0.55、夏期2回目で0.91だった。いずれの区も夏期の収穫2回とも葉先の焼け等が見られたが、例年同時期比よりも葉先焼けが抑えられ、調整作業や品質に問題はなかった(表2、写真1、2)。

表1 AL品率(重量ベース) (%)

	夏期1回目	夏期2回目	夏期平均
供試区	87.6 (7/4 収穫)	57.0 (8/9 収穫)	72.3
対照区	78.0 (7/16 収穫)	39.7 (8/19 収穫)	58.9

※5株全茎数を調査し、葉幅8mm以上のものの重量割合

表2 葉先枯れ程度

	夏期1回目	夏期2回目
供試区	0.43	0.86
対照区	0.55	0.91

※葉先枯れの程度を、無し：0、軽：1、中：2、甚：3とし、程度=(無し×0+軽×1+中×2+甚×3)/全本数とした。



左(写真1) :
供試区1回目の葉先

右(写真2) :
供試区2回目の葉先

○ 今後の方向性

外張りフィルムの張り替えの初期投資は必要であるが、寒冷紗の取り外しなどの負担が無いこと、夏期のにらの品質に問題が無かったことから、農POフィルムを使用している農家の張り替え時期に提案を行う。

実施機関：河内農業振興事務所経営普及部 実施場所：上三川町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315